屬團體と見るべきである。

さて上に述べた遊牧民の姓部の移動といふことは、彼等の生存上缺く可からざることで、全く自然に支配せられて居る彼等の生活は、一旦その災害を被むる場合には、他の姓部に結び付くるより外に道はない。戰の場合にも同樣で、强者に結び付くの外はない。此の如くにして相互に姓部の混合、血族の混合が生じ、また文化の混合も生じて來る。昔から長い月日の間にはかゝる現象が幾度となく繰り返されて居る。それで全體の社會現象としては昔も今も大差はないが、しかも北方亞細亞の一般遊牧民の血統と改化とはもとより純粹を保つことは出來ないで、元來相類似點はあつたらうが、その間にも甚しき混淆を有して居るものと斷ぜねばならぬ。況んや古來此の地方にはトルコ・蒙古・ツングースと三大別した種族の中から、それ〴〵大勢力を作つた豪傑が出て、此の廣い地域を交々己れの勢力の下に統べたことであるから、かゝる勢は一層甚しきものがあると見なければならぬ。

（亞細亞評論第二卷第三號、大正七年三月）